

## オンラインセミナー「ステイ・ニュータウンで再発見！」第2回

### 「Back to ビフォア・ニュータウン！」

2021年3月13日(土)17:00-18:30

お話し: 岡野和博さん(朝日新聞千里販売)

聞き手: 奥居武(千里ニュータウン研究者)

#### 奥居

「ステイ・ニュータウンで再発見！」本日は第2回「Back to ビフォア・ニュータウン！」と題して、千里ニュータウンの古い地名に関して、朝日新聞千里販売の岡野和博さんにお話を伺います。千里丘陵がニュータウンになる前、どんな地名があったのか。ニュータウンの町名はどういうところから付けられたのか。

岡野さんは、地域新聞「千里あさひくらぶ」の記者で、日々千里を歩き回っているいろいろな発見をしておられます。それでは岡野さん、よろしくお願いします。

#### 岡野

私は、朝日新聞千里販売に勤めているスタッフです。朝日新聞に毎月末日曜日に折り込まれる地域情報紙「千里あさひくらぶ」を作っています。取材記者と制作を担当しています。

今日は、私が地域を歩きながら発見したいろんなネタの中から、地元の地名の由来などを少しでもお伝えできたらと思っています。

#### 奥居

千里ニュータウンができて来年で60年になります。千里ニュータウンになる前にどんな地名があったのか。『新しき故郷』(山地英雄著 2002)という本からご紹介します。

非常にたくさんの大字(おおあざ)名、小字(こあざ)名が入り乱れている。「古江」という小字名があったり、今の藤白台があった場所には「藤白(とうじろ)」と読む地名がありました。津雲台の由来となった「九十九(つくも)」、「高町」という小字名をアレンジして「高野台」になったと言われています。

千里ニュータウンには古くから溜め池が多くありました。大きなものはそのまま残っています。「蓮間池」「檜ノ木池」「長谷池」「牛ヶ首池」「菩提池」。

「寅谷(とらたに)」という名前が青山台のあたりにありました。古江の下には「申谷(さるたに)」。大字「上新田」には「鷹巣(たかがす)」という小字名がありました。牛ヶ首の右のあたりに「菖蒲谷(あやめだに)」。高野台のあたりには「大和谷(やまとだに)」。「箕面谷(みのおだに or みのだに)」という地名も。

いっぱい小さい地名が入り組んでいる。千里丘陵がニュータウンになる前から、人の手が入って細かく使いこなされてきたことが伺えます。

今も名残が見えるシーンをご紹介します。高野台府営住宅で「大和谷自治会」という看板を見つけました。古い地名を今も自治会の名前に使っている。「あやめ橋」は高野台から津雲台に渡る阪急電車をまたいでいる橋。この名前は古い地名の「菖蒲谷」から取られている



のでしょうか。豊中市側では、新千里北町の入り口にある「榎ノ木公園」。これも古い地名「榎ノ木」が残って公園の名前に使われている。

今日は岡野さんが足で集めたいろんな例を、2つの大きなエピソードを探求していただきましたので、ご紹介いただきます。

## 電柱の謎文字から津雲台の歴史を掘り起こす

### 岡野

津雲台や竹見台、いろんな地名がありますが、昔はもっと細かく地名が、小字がもっと細かくあったんですね。

1つ目のエピソードは、電柱の謎文字から津雲台の歴史を掘り起こしてみます。みなさん電柱をじっくり見たことありますか？ないと思います。まちあるきをしてネタを集める中で、電柱のちょっとした文字に注目してみました。

津雲台のあるところ。団地の前の電柱に 20cm×10cm くらいの白い札がついています。「倍」「徳谷」「弘前」と書いている。津雲台では謎文字を 3 種類見つけました。これはいったい何なのか。

インターネットで調べても出てこなかったもので、図書館に行ってみました。吹田市立千里図書館の方にお話を聞くと、「もしかすると昔の地名かもしれない」と本を紹介していただきました。『千里ニュータウン むかしのはなし』。ページをめくっていくと、小字という昔の細かい地名が書かれた地図が出てきました。そこで津雲台の部分を見てみると…。



### 奥居

「津雲台」となる前にどんな小字名があったのかが書かれている。

### 岡野

その小字図に、電柱にあった文字を発見しました。「倍(培)」「徳谷」。電柱にあった「倍」「徳谷」「弘前」の3つの場所を色分けしてみると、小字のエリアと重なるかたちで、謎文

字の札がある。だいたい重なる範囲で電柱が立てられていました。

次に調べたのは関西電力。電話とインターネットで親切に回答してくれましたが、答えは「なぜ電柱に昔の地名が書かれているのかわかりません」と。怪しい人だと思われたのかも知れません。電力は重要なインフラですから、セキュリティのこともあって、広報的にガードされたのだらうと思います。

とはいえ図書館から教えてもらった本で、小字名だということはわかりました。

## 奥居

津雲台の小字図に、「弘前」という文字はないですね？

## 岡野

これはおそらくニュータウンができる前からあった「弘済院前」を縮めたんじゃないかなと推測しています。

## 奥居

そういうことですか！なぜか吹田市なのに大阪市立弘済院。ニュータウンが出来るずっと前…昭和10年（1935年）から現在の場所にありますからね。

## 岡野

電柱の謎文字の意味がだいたいわかったので、さらにそこから津雲台の歴史を掘り起こしていきます。

津雲台小学校は私の母校ですが、私が3～4年生の時、津雲台小学校創立20周年の歌ができました。津雲音頭。「何にも無かった竹やぶに～素敵な街ができました♪」という歌い出し。これを聞いた時、たしかにニュータウンだけ何もなかったんだ。たんなる竹藪だったんだと非常にショックを受けました。竹藪だってタケノコを採っていたので、「何もない」とは言えませんが…。

そこで「何もなかった」津雲台を調べました。あったんですよ。やっぱりこの本です。ちょっと読んでいただけますか。

## 奥居

「津雲台二丁目にあった小字「尼塚（あまづか）」に「紫雲寺（尼寺）」がありました。二百年ほど前、今の山田東二丁目へ引っ越してきました。」

## 岡野

この本は1977年に発行された本。著者が主に山田村の人たちの家々をめぐって生の声をインタビューしたものがまとめられている。もちろん生の声ですから正しいとは限らないんですが、貴重な本ですね。その中に書いてあったのが、今読んでいただいた文章。小字「尼塚」は津雲台の一部なんですね。



## 奥居

千里南公園の北東のあたりにあった。

## 岡野

千里南公園の円形広場の向こうにすごいものがあつたんです。現在の山田東二丁目(旧山田中村)にある浄土真宗 光明山「紫雲寺」。伊藤若冲と並び称される画家の森狙仙が描いた天井画があります。このお寺が津雲台の「尼塚」にあつた。

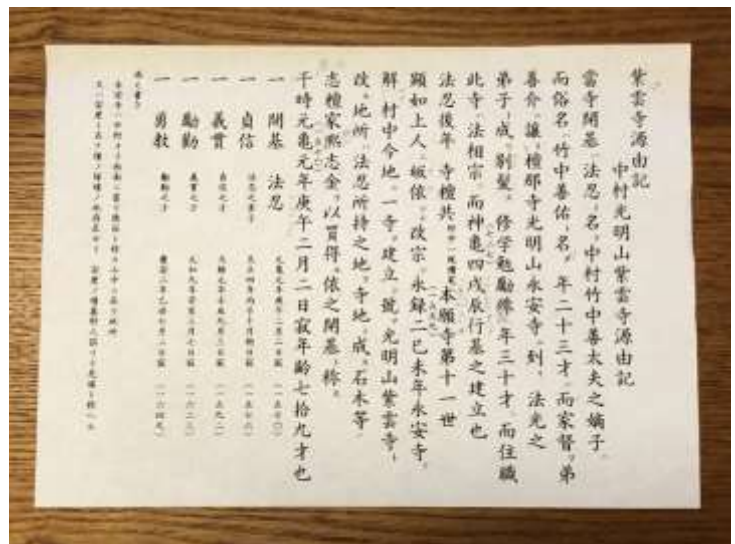
## 奥居

今は山田の旧村の中にあるが、昔は今の津雲台になっている所にあつた。

## 岡野

その証拠に、紫雲寺の由緒(由記)の最後のところに「永安寺が尼塚にあつた」と。「徳谷」と書いていますが、お寺の方に伺うと「尼塚だ」とおっしゃっていました。

紫雲寺の由来によると、永安寺は727年に行基が…東大寺の大仏や佐井寺…当時は山田寺(さんでんじ)も作ったとされる方ですが…。その行基が永安寺を、千里南公園の小高い丘の山上に建てられたとある。



## 奥居

小高い丘というと、阪急電車のトンネルのあたり。

## 岡野

紫雲寺の由来には「トンネル」とは書かれていませんよ。(笑)永安寺が今の場所に移る時に、紫雲寺と名前を変えたと書いてありました。これでも、津雲台は「何もなかった竹藪」って踊れますか？

## 奥居

熱心な岡野くんが調べ直して、歴史が書き換えられた。地名あなどるべからずですね。

## 岡野

電柱の謎文字から小字がわかり、小字からお寺に取材に行って、そこから津雲台の古いお寺まで情報がたどり着いた。

## 奥居

ちなみに電柱に書いてある古い地名は、千里のどこでも書いてあるわけではないんですね。うちは藤白台ですが、見当たらないような気がします。

## 岡野

そうですね。だいたい千里ニュータウンをめぐるしましたが、場所によっては小字名が書いていない所もありました。

ニュータウンを造成して電柱を立てる時、管理上の目印が何か必要だった。記号や数字だけだと関西電力も大変。だから小字名を使ったんじゃないかなと推測できます。

## 奥居

ニュータウンを造るとき、電柱は開発の早い段階で立てなきゃいけない。町名は入居の直前や遅い段階で付くので、電柱が立つ段階では町名がまだ決まっていない。そこで近隣の古い地名から引っ張ってくるケースがあるのではと。

## 岡野

済生会千里病院の道路から見た尼塚。古墳みたいな小高い山。津雲台の最高峰で約 75m あります。

## 奥居

配水池がある所のほうが高くない？

## 岡野

そのツッコミはきついわ(笑)。また調べます。まとめると、津雲台はだいたい 15~16 の小字があった。その中で今回調べて面白かったものをお伝えします。

「徳谷」は徳のある僧にちなんで付けられたのではないかと。

「尼塚」は尼寺じゃないんです。お墓です。

「白髪」は、朝鮮半島の新羅(しらぎ)から渡来した人たちが住んだ町だと言われています。

「池町」は、牛ヶ首池西側のほとりにある町。

行基が各地でインフラを整えたと言われていますが、千里南公園の牛ヶ首池ももしかしたら行基が作られたんじゃないかなとロマンとして考えられますね。津雲音頭をくつがえしたい一心で頑張りました。

## 竹見台の「見」はどこから来た？

### 奥居

津雲台にまつわる小さな字名が電柱に名残をとどめているというお話を伺いました。

続きましては「竹見台」。竹見台の「見」のルーツに迫っていただきます。竹見台は南千里の北西ですね。千里ニュータウンの中で、吹田市側では一番新しい一角です。

## 岡野

スターハウスの建替が始まっている。素敵な町だと思います。千里ニュータウンは、佐竹台から入居が始まって、だいたい反時計回りにできあがってきた。竹見台は1967年にできたんですが、最初は違う名前案だったんです。これも図書館で調べました。『春日郷土史』という本にありました。

大阪府が千里ニュータウンの町名案を提案しているんですが、当初案では、南千里佐竹町、南千里高野町。豊中は西千里。藤白台は北千里が付いて北千里藤白町。竹見台は、南千里石川町、桃山台は南千里玉子町。

まちびらき	市	大阪府の提案	最終決定
1962	吹田市	南千里佐竹町	佐竹台
1963	吹田市	南千里高野町	高野台
1963	吹田市	南千里津雲町	津雲台
1964	吹田市	北千里古江町	古江台
1964	吹田市	北千里藤白町	藤白台
1965	吹田市	北千里蓮間町	青山台
1966	豊中市	西千里柿木町	新千里北町
1966	豊中市	西千里長谷町	新千里東町
1967	吹田市	南千里石川町	竹見台
1967	吹田市	南千里玉子町	桃山台
1968	豊中市	西千里高塚町	新千里西町
1968	豊中市	西千里藤原町	新千里南町

## 奥居

千里ニュータウンは大阪府が開発した町ですが、大阪府は当初こういう町名にしたらどうでしょうかと叩き台を作った。実際に町名を決めるのは吹田市であり豊中市ですが、大阪府が両市にサジェストした。最終的には吹田市側はシンプルに「～台」、豊中市側は「新千里～町」となりました。

## 岡野

大阪府の素案で、南千里、北千里、西千里はありますが東千里はない。

## 奥居

東千里は万博なんじゃないかな？

## 岡野

新しい説！（笑）

## 奥居

「千里中央」という駅が突然、原野のような造成地に登場した時から住んでいますが、中

央といってもすごく西にずれている。中央って何だ？と思いました。

それはともかく、吹田市の佐竹、高野などは実際に付いた町名と近いですが、吹田市側でも今と違う所がありますね。

## 岡野

この中で、竹見台と桃山台は地名を決定するまで揉めたようです。南千里石川町が竹見台になり、南千里玉子町が桃山台になった。その経緯を調べに、千里ニュータウン情報館に行きました。情報館にはニュータウンの面白い資料がたくさんあります。個人的にお気に入りなのは「千里タイムズ」と「ニュータウン」。2 大地域新聞が創刊号からすべて見られます。

## 奥居

インターネットがなかった時代に、ニュータウン住民は地域の情報といえばこれを必死になって読んでいた。「千里タイムズ」は創刊時は「千里山タイムス」という名前でしたが、途中から紙名が変わっています。

## 岡野

ここを読んでください。(千里山タイムス 昭和 42 年 2 月 10 日号)

## 奥居

「E 住区 北桃源台 D 住区 南桃源台と内定」

## 岡野

E 住区は今の竹見台。D 住区は桃山台。当初案から変わって、北桃源台と南桃源台に内定したと書いてあるが決まらなかった。なぜ決まらなかったのか推測しかできませんが、今まで地域の歴史ある小字名にちなんでやってきて突然、今でいうキラキラネームみたいな名前ですよね。それがあまり評価を得られなかったんじゃないかなど。

## 奥居

それまで小字名をアレンジして町名にしていたことからすると、ちょっと変わっていますよね。

竹見台は千里の中ではじめて 11 階建が建った所。火事が起きたらどうするんだと問題になったこともありました。

## 岡野

当時の消防のハシゴ車が 5 階までしか届かない。11 階を建ててどうするんだという記事がありました。

…脱線しました。やっと決まりました。昭和 42 年 3 月 5 日号の「ニュータウン」。2 月の内定記事から 1 ヶ月弱で変わっています。「E 住区は竹見台。D 住区は桃山台」。その地域が竹の名産地だったことと、桃山台は当時、桃園があり桃が多かったことから付けられたんですね。

この経過には、いろいろ変遷があったみたいですよ。「千里あさひくらぶ」2013年3月号で「千里の桃のおはなし」を取り上げています。

<http://0843.co.jp/aclub/download/kaihou/201303.pdf>

今のイオン南千里店から桃山台のあたりは、一円の桃園だった。観光地だったそうです。当時の小字名を集めた小字図（だんご図）を見てください。上が竹見台。下が桃山台。当初案がなぜ採用されなかったのかを私なりに推測しました。

当初案では、南千里石川町が竹見台の予定だったが石川はずいぶん離れている。現在の津雲台七丁目のあたりです。これはさすがに難しいのではないかと推測できます。ちなみに津雲台の小字「石川」は、飛鳥時代の蘇我入鹿を暗殺した蘇我倉山田石川麻呂の領地だったから「石川」と付けたんだろうという説があります。川がないのになぜ石川なのか。この字が大事にされていたから石川町という案が出たんじゃないかなと。

一方、桃山台のあたりは「玉子谷」という一連の小字名があった。奥玉子谷、玉子谷、口玉子谷とあったそうです。なぜ玉子谷台にならなかったのかはわからない。玉子谷ってかわいいですよね。吹田市立玉子谷小学校（笑）。石川とセットで流れてしまい結局、竹見台と桃山台に落ち着いた。

竹見台の「見」に迫っていきます。1962年の佐竹台から時系列に並べてみました。青山台から小字の名前が採用されなかった。

## 奥居

最初の佐竹台は、大字「佐井寺」の「佐」を取った。そのままじゃなくアレンジはしていますが。高野台は小字「高町」。津雲台は「九十九（つくも）」の文字を置き換えた。「古江」はそのままだ。藤白台は小字「藤白（とうじろ）」を「ふじしろ」と言い換えた。そこまでは何らかのかたちで元の大字・小字名が断片的に入っているのに、青山台からキラキラネームの感じになってきた。

豊中市側は機能的な名前にしていますが、吹田市側も「青山台」「竹見台」「桃山台」はイメージぽくなっている。

## 岡野

青山台と桃山台は「山」が付いているのに、「竹見台」は「見」。

## 奥居

吹田市側に8つ町があり、「竹」だけ2回使っているんですね。佐竹台と竹見台。竹を見たから竹見台？青山台と桃山台は、山だったから？

## 岡野

標高を調べると、桃山台より竹見台のほうが5mほど高いんです。千里ニュータウン情報館に語り部が来られて、いろんな情報を持ってきた。その方からの情報ですが、こんな説を聞きました。「竹見台の造成中にお地蔵さんが掘り起こされた時、お地蔵さんの先に竹があったから」。

竹見台にはお地蔵さんがおられます。竹見台近隣センター北側の「しいのき公園」に、千



里では珍しい祠があります。その中にお地蔵さんがいる。江戸時代のお地蔵さんだろうと吹田市立博物館ホームページに書いてあります。

[http://www2.suita.ed.jp/hak/bun/rekishi/bun\\_r7.html#r7c](http://www2.suita.ed.jp/hak/bun/rekishi/bun_r7.html#r7c)

では竹見台になった場所は、どういう小字名だったのか。『千里ニュータウン むかしのはなし』に出ているだんご図を見てみます。

## 奥居

「箕面谷（みのだに）」「ロイラス（くちいらす）」「牛ヶ首」という小字名が見えますね。

## 岡野

「箕面谷」のところにお地蔵さんがいらっしゃる。「箕面谷」が、竹見台の多くを占める小字名です。当時、箕面谷と呼ばれている所はどんな場所だったか『ニュータウンむかしのはなし』で調べました。「このあたりは昔、狐山と呼ばれる美しい竹林が広がっていました。古くは大公（豊臣秀吉）の子孫が所有されていた松山で大公山と地元の人から呼ばれて大変親しまれていた」と。地域の方にとっては大変大事なところだったんだろうと推測されます。なるほどと思いましたが、これで取材を終わったら面白くない。

私は「お地蔵さん見てた」説は違うんじゃないかなと思いました。

## 奥居

開発中の千里丘陵を見渡せばどこでも竹しか見えない。

## 岡野

千里ニュータウンは計画当時、宗教色をなるべく排除しよう。大阪府が作った町ですから。最初からお寺も神社もなかった。古江稲荷はありますが、できるかぎり宗教色を排除しようとしたので、お地蔵さん説は違うんじゃないかなと。

いよいよ独自の新説に入ります。なぜ竹見台の「見」なのか。竹見地蔵の石柱に取材を終えた感謝の気持ちを込めて手を合わせて頭を垂れると、石柱が目に入りました。縦書きの「竹見」を見て、何かに見えませんか。「竹」と「見」を足したら、「箕」という文字に見えてきた。竹見台の地域は、箕面谷という小字が占めていました。その地域の方にとって大事な美しい竹林や松山があった。竹見が箕に見えてきて、一回見えたらそれ以外の文字には見えません。どうですか、この説！



## 奥居

真相はわかりませんが、面白い。縦書きでないと気がつかないですね。

## 岡野

奥居さんにいつも「憶測で書いたらダメ」と言われますが、「千里あさひくらぶ」にも書

いたところ面白いと思っていただいた。これが竹見台の「見」の由来じゃないかと僕は結論づけました。

## 奥居

ありがとうございます。このオンラインセミナーの狙いは、ステイホームで運動不足になりがちな今日この頃ですが、地元の面白いネタを掘り返してもらって、暖かくなってきたことでもあるし外を歩き回ってもらおうネタを提供したいというのがあります。

前回の第1回は平軍二さんに鳥の話をしていただき、今回は岡野さんに電柱を見上げて古い地名を探索してみようと。電柱に古い地名のかけらが残っていることがある。そこからいろいろ調べていくと、古いお寺の話が出てきたり、お地藏さんからいろんな気付きを与えてくれた。

## 岡野

地名というのはそこに住んでいた人たちが、後世に何かを残したいと思いを込めることが多いと思うんです。それが将来、私たちがロマンを感じたりいろんなことを感じさせてくれたりするのには素晴らしい。地名って面白いなと感じました。

## 「何もなかった竹藪」ということは決してない

### 奥居

岡野さんから2つのエピソードを話していただきました。

私からも千里の地名に関するネタをお届けします。私は藤白台に住んでいます。「藤白王子跡」というこの看板の写真は、吹田の藤白台ではありません。岡野さんは和歌山県のご出身ですね。この「藤白（ふじしろ）」という地名は、和歌山県海南市にあります。

### 岡野

はい。馴染み深い。熊野古道の入り口です。

### 奥居

有名な藤白神社という神社があり、その一帯は「藤白」という地名。そこに「藤白王子跡」がある。「王子」は熊野詣の人たちのための中継所のような拠点だったようです。

熊野信仰と千里の地名は、つながりがあるのではないかという説があります。「津雲」＝「九十九（つくも）」もそうだし、豊中に「熊野田」という地名がありますね。まさに熊野ではないか。熊野信仰の熊野。そこに千里丘陵の藤白。真相はわかりませんが、小字「藤白（とうじろ）」と呼ばれる一角があった。文字面も良いのでめでたくニュータウンの町名に採用されて「藤白台」になったと。熊野との関係は昔の話なので、真相はわかりませんが。



## 岡野

実は藤白神社は、「鈴木」という苗字のルーツとも言われています。「鈴木サミット」があって、全国から鈴木さんが集まってくる神社です。

## 奥居

ニュータウンの地名というのは、関係がニュータウン外にも飛ぶ。そんなこともあるのかもしれないという例です。

もう一つ。千里中央から上新田にかけて、「鷹巢(たかがす)」という小字名がありました。そう言われてみると、千里中央のセルシーに「鷹ヶ巢」というお店がありました。今はなく、阪急梅田でやっておられる。上新田の地名が梅田にジャンプしているといえますか、そんな例もあります。

余談ついでに「青山公園」「古江公園」「高野公園」は開発当初、違う名前と呼ばれていたことを私の友達でも覚えている人がいる。青山公園は「寅谷(とらたに)公園」。古江公園は「申谷(さるたに)公園」、高野公園は「大和谷(やまとだに)公園」と言っていました。トラとサルは動物じゃなくて方角を示す十二支の漢字のほうです。小字の名前を公園に付けたけれど、どこかの段階で住区名に揃えた。数年前になくなった南千里市民プールは、開設当初「大和谷プール」という名前でした。

千里ニュータウンは50数年の歴史ですが、いろいろ調べると謎が深まっていく。もっと調べると、もっともっというんなことが出てくると思います。

私と岡野さんでネタを提供しました。もっと調べてみたいとみなさんが思っただけなら健康増進にもなるし、地域への理解が深まると思います。

## 岡野

地域情報紙「千里あさひくらぶ」は、千里地域の朝日新聞に毎月末折り込みされます。今日お話ししたことも書いています。バックナンバーもダウンロードできます。

<http://0843.co.jp/aclub/>

## 奥居

それでは参加者のみなさんから質問を受け付けます。

### (参加者)

千里には「塚」のつく地名がいくつかあります。お墓でしょうか。探訪されるつもりはありますか？

## 岡野

宿題ですね。高いところにあるお墓のことを「塚」といいますね。新千里西町の電柱の謎文字は「高塚」。そういう視点で千里を歩いてみると面白いかもしれません。

## 奥居

ニュータウンになる前は、何もなかった千里丘陵ということは決してない。いろんな歴史

の断片が積み重なって痕跡があります。

#### (参加者)

昔から人が住んでいた痕跡がある。ならば自給自足もしていた？

#### 岡野

千里のエリアにも点々と以前住んでいたであろう所や、実際に住んでいた所があります。一番有名なのは古江台。古江台近隣センター近くの池のあたりに小さな集落があった。山田村から移ってきたといわれています。まわりには耕作地があったし、水は池から取っていたでしょう。古江稲荷という小さな神社もあります。

#### 奥居

千里ニュータウンは元山田村であったり新田村であったり、部分的には佐井寺村だった場所もあります。人家そのものを立ち退きした所は少ないですが、古江集落は数少ない移っていただいた所です。

人家は少なかったけれど山田や上新田の人たちは畑を作ったり。そこに住んでいるわけじゃなく通ってその土地を使っていた。使わないことには、こんなに細かく地名が付かないと思うんですね。

今も昔も大阪からの距離は変わらない。大阪から近い場所には利用価値があり、細々と使われてきた形跡がある。江戸時代も明治以降になっても、いろんな歴史の断片が出てきます。完全にはわかっていないことが多いですが。

大阪から近いのに、なぜ千里ニュータウンが造られるまで大きく発展しなかったのか？それは水の便が悪かったからだと言われていています。そこに大阪府が目を付けて、水道を整備して都市になる基盤を整えました。

#### 岡野

千里の谷はだいたい田んぼとか耕作地に使われていた。水がまったくないというわけではない。国土地理院のサイトなどで昔の航空写真を見ると、田んぼがたくさんある。くわいの歴史も古いですね。

#### 奥居

それはもっと吹田の南のほうでしょう。くわいは、たっぷり水がないとできないですね。

#### (参加者)

ニュータウンの町名をつける時に、反対運動はなかったのですか？

#### 岡野

当時の「千里山タイムス」を調べると、反対論が出ていました。竹見台に入居予定の方が田舎に「これから竹見台という所に引っ越す」と手紙を書いたら、「お前はそんな竹藪の中に住むのか」と返信がきた。「竹見台」はとんでもない地名じゃないかという投書があった。

竹見台、桃山台は最後のほうにできたから、いろんな意見が出てきたみたいです。

### 奥居

名前を付けるのは難しいことですよね。好き嫌いは人によって違う。桃が素敵だと思う人もいるでしょうし、嫌いな人もいる。

元の地名が「古江」だから「古江台」というのは納得しやすいですが、新しい名前をクリエイトして付けると、なんでそんな名前にするんだという意見が出ますよね。

豊中市はそれを慮って「東西南北」と付けてしまおうと思われたのかな。機能的というか。

### 岡野

府の当初案「南千里～町」「西千里～町」は、新しい部分と古い部分を融合した素敵な名前だったと個人的には思います。長いですけどね。「玉子台」はどうですか。

### 奥居

「玉子台」はやってほしかった。かわいいじゃないですか。

### (参加者)

竹見台に住んでいますが、竹見公園で遊ぶときに子供たちは「イラスへ行く」と言っていた。なんでかな？とずっと思っていました。さっきの昔の地図に「ロイラス(くちいらす)」とあったので長年の謎が解けました。

### 奥居

たぶん、そうですね。

### 岡野

奥イラス、ロイラスとあって、そこに竹見公園がある。

### 奥居

漢字で書くと、イラスのイラは「虫へんに占」(𧈧)。スは巢。当て字かもしれませんが。

### 岡野

この漢字に意味があるのかわかりませんが、そのままだったら、イラスのイラはイラクサです。田んぼの畦道をイラスと呼んだという情報もあります。

### (参加者)

千里ニュータウンの中で、化石がどこかから出たという話を聞かれたことは？

### 奥居

佐竹台の菩提池の西側のあたりから、古代のアケボノゾウの化石が出ています。佐竹公園の西側の入口にプレートがあります。化石はどこにあるのかな？千里丘陵も大昔はゾウは

出るわ、阪大の豊中キャンパスからはマチカネワニの化石も出てくるわ…。

## 岡野

佐竹公園の話が出たので、ちょっとだけ。「菩提池」って素敵な名前ですね。先祖を弔うことを菩提といいます。菩提池のそばに昔はお寺がたくさんあり、織田信長の軍勢に焼かれたそう。その菩提を弔う寺があったことにちなみ、「菩提」という小字名や池の名前になったという説があります。地名って面白い。

## 奥居

千里ニュータウンは大阪府が山を切り崩し谷を埋めて開発しましたが、土地の記憶を何らかのかたちで残そうと、古い地名を町名にしたらどうですかと。「菩提池」など池の名前は、元の名前を生かしている。千里の玄関口におどろおどろしい名前の「牛ヶ首池」がありますが、今はその名前のまま親しまれていますね。

## 岡野

「牛ヶ首池」の由来についてはいろんな説があります。

## 奥居

今風なキラキラの部分と歴史が共存していることもニュータウンが面白いところじゃないかな。調べてほしいことを情報館で言うと、職員や岡野さんが走るかもしれません。

本日はありがとうございました。このセミナーの3回目は、3月21日（日）14時～15時半。「アートがなくては千里じゃない！」千里の公園などにはアート作品、パブリックアートがたくさんあります。なぜアートがいっぱいある町になったのかを千里在住のアートディレクターの藤脇慎吾さんと一緒に探求していきます。

吹田市立千里ニュータウン情報館は、南千里駅の改札を出てわずか30秒のところであり、千里のいろいろな資料や記録映像を集めています。千里に関する情報がございましたら、ぜひお知らせください。

それでは本日は岡野さん、ありがとうございました。

主催：吹田市立千里ニュータウン情報館  
運営企画：一般財団法人 千里パブリックデザイン  
後援：吹田市・豊中市千里ニュータウン連絡会議  
文字起こし：AKIRA text create 山本晶

## ■参考文献／情報源：

『千里山タイムス』『ニュータウン』『千里ニュータウン むかしのはなし』『春日郷土史』『山田郷土史 山田のあゆみ』『すいた歴史散歩』『続・千里の歴史と伝統』『新しき故郷』

『千里ニュータウンの建設』『千里ニュータウンマップ 2018』

『のらねこ商会』 <http://nora.my.coocan.jp/mac/>

『NOBUSAN BLOG』 <http://19481941.blog.fc2.com/>

吹田市立千里ニュータウン情報館、吹田市立千里図書館、光明山紫雲寺